

令和元年度教育事業 「教員免許状更新講習」 実施報告

- 1 趣 旨 体験活動の意義について理解するとともに、学校教育における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家
- 3 日 時 ①令和元年8月5日（月）、6日（火）、7日（水）
②令和元年8月26日（月）、27日（火）、28日（水）
- 4 場 所 国立淡路青少年交流の家
- 5 対 象 教員免許状更新講習対象者
- 6 参加者 ①52名 ②20名

7 内容等

<8月5日（月）、26日（月）>

教育現場で活かす体験活動①「子どもたちがわくわくする体験活動」

講師：大阪国際大学 教授 高見 彰 氏

昨年度に引き続き高見教授に講師をお願いした。受講者が実際にプログラムを体験することで、レクリエーションのポイントや注意点を学ぶことができた。学校現場でも学級づくり、仲間づくりなどに活用できる内容であった。



<8月6日（火）、27日（火）>

教育現場で活かす体験活動②「体験活動の実際」

講師：国立淡路青少年交流の家 次長 梅津 孝一
企画指導専門職 野原 宏太

主体性や社会性、環境問題や自然の多様性などについて学ぶことをねらいとし、カッター研修、アドベンチャーラリー及び環境教育プログラムの体験活動を実施した。この実習を通して安全管理や活動のねらいを踏まえ、より教育効果を高めるためにはどうすればよいかについて考えることができた。



<8月7日(水)、28日(水)>

教育現場で活かす体験活動③「教育の現状と課題について」

「学校教育における体験活動の意義」

講師：国立淡路青少年交流の家 所長 大本 晋也
兵庫県教育委員会播磨東教育事務所
副所長兼教育振興課長 安東 靖貴 氏

教育の現状と課題について、グループワークを通して考えを深めることができた。また学校教育における体験活動の意義について学ぶことができた。校種や地域、経験年数や年齢を越え、お互いの現状を広く共有し合い、子どもたちにどんな力をつけるべきか考えることができた。



8 参加者の声

- 興味のわく活動ばかりで、楽しみながら学ぶことができました。
- 自らが体験することで、改めて体験活動の必要性を感じました。
- 内容が楽しく、充実していたので参加しやすく、活動も盛りだくさんでとても良かったです。
- 体験した活動を、今後の指導に取り入れていこうと思いました。
- たくさんの経験と、たくさんの仲間との関わりをもつことができました。学んだことをこれからの人生にも役立てていきたいと思います。

9 成果

受講者評価書から、「講座内容」「知識等の習得」「運営面」いずれについても、「よい」「だいたいよい」を合わせ、99%以上の受講者から評価を得ることができた。

体験型の講習会であったことと、すぐに学校現場で活用できる内容が含まれていたこと、それを支える学びの場が設定されていたこと等が好評の一因であったと考えられる。また、幼稚園教員から高等学校教員までと校種が幅広く、それぞれの現場の状況や課題を共有できたことも良かったようである。

また、地域・校種を越えたネットワーク構築がいろいろな場面で積極的に行われていた。淡路島内で唯一更新講習が行われている施設なので、ニーズをしっかりと受け止め、次年度に生かしていきたい。